

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第72号(201507)

発行 竹田 幸男



5月例会、吉岡地区委員を迎えて

例会の窓

平成27年6月例会

日 時：平成27年6月10日(水)

13:30 市民活動センター

4F ワーキングスペース

出席者：天野 新井 小笠原 小林 竹下 竹田
谷

欠席者2名(50音順・敬称略)

例会次第

1. 各会員の最近の活動状況・情報交換
 2. 報告・連絡・協議事項
- (1) 会報筆者 天野さん

(2) 初級撮影会兼編集講習会の結果

・ 5月21日(木) 9:00 東寝屋川駅集合 12名参加

撮影地: 野崎観音、午後は市民活動センター子供室において編集講習会

撮影・編集指導 竹田

撮影・編集講習会を1日で行ったため、すべての経過を体験できたと思う。

(3) 映像協会撮影会

・ 日時: 6月11日(木) 9:30 寝屋川市駅集合 雨天中止

・ 場所: 万博記念公園

(4) 7月の合同例会は別会場で

・ レクリエーションを兼ねて光善寺・楽寿荘で7月19日(日)開催

・ 11:00 現地集合、会費2,500円。

(5) 今年の大阪アマチュア映像祭出品作品の検討

・ 6月例会で検討・7月合同例会で決定。

・ 映像同好会からは、竹下さん「世界で一番大きいきもの」を推薦します。

(6) 移転に伴う機器の持ち帰り等の問題

・ テレビ等持ち帰り 天野さんに依頼。

・ プレイヤーは、7月合同例会で使いたい。(今日は新井さんが持ち帰り。)

(7) 市民文化祭作品は、9月例会で締め切り。

(8) 9月19日(土)映像北大阪との合同例会予告(後からの連絡で9/12に変更)

3. 映写

(1) 小林さん 「野崎観音」 8分

・ 最後の場面ではBGMがあれば良かったと思います。

撮影時、画面がいろいろの方向に移動するので、連続の画面内では1回以上の移動がないように映像を分割すればいいと思います。

(2) 谷さん 「緑の野崎観音」 5分22秒

・ ラストシーンで人々が背を見せて遠ざかっていく場面があり、終わりかなと思ったら最後に又お寺の画面に戻って「終」になっていたのも、お寺の画面は不要でしょう。「終」の文字がぼやけていたので他の色にしては。

(3) 新井さん 「野崎観音」 野崎観音撮影・編集会の様子のドキュメンタリー、ストーリーと解説等のナレーションとを男声と女声で使い分けられています。

(4) 小笠原さん 「あべのハルカス：新世界に学ぶ」 10分4秒

- ・ 田舎の人に見せたくてこの作品を作られた、とのこと。あべのハルカスと新世界という異質のものをそれぞれ違う作り方で表現して組み合わせられています。
- ・ 新世界の部分、映像と大阪弁のおもしろい歌が良く合っています。
- ・ あべのハルカス部分の最後に、遠景の映像がズームバックしていくとともにクラシックのBGMがエンディングを迎えてちょうど雰囲気が盛り上がったときに最後に近景の映像が入り込んで雰囲気を壊しています。ラストシーン向けの映像の最後とBGMの最後が一致するように編集を練り直されたら効果が上がると思います。
- ・ 上から撮った建物の説明の時に、同時に地上で撮った建物建物の映像をはめ込んでみてはどうかという提案も出ました。

(5) 竹下さん 「はないちもんめ」 二条城：醍醐寺

- ・ 醍醐寺、満開の桜が見事です。偶然、子供たちが庭園で「はないちもんめ」をして遊ぶ姿が撮影できて感動され、タイトルにしようと決めたそうです。
- ・ ナレーションでは二条城と醍醐寺の後ろ盾に家康と秀吉があると解説されていたので、花の美の勝負と権勢の勝負を「はないちもんめ」の歌詞にかけられてタイトルにされたものと思います。

4 . 会員の当面する問題点等 (略)

5 . 来月の開催日 7 / 8 (水) 13時30分 市駅前 産業振興会館5F

- ・ 次回は仮説会場での第1回の例会。



音声認識ソフト

天野 忠一



音声を作成するソフトに“音声合成”ソフトがあります。身近なものには、私たちがビデオにナレーションを入れたい場合に使っているあのソフトです。自分の声でナレーションを作成することを苦手とする者、ナレーションを入れた時に映像がどう変わるかをチェックするには非常に便利なソフトであり、利用価値のあるソフトと思っています。

この音声合成ソフトによく似た名前でも“音声認識”ソフトがあるのをご存知でしょうか。音声合成ソフト以上に凄いとされるソフトに先日出会い、(iPhoneにはこれに似たソフトが搭載されているかも) 売り手のキャッチコピーと買い手のニーズが合致し、衝動的な面もありましたが購入しました。

その購入理由ですが、私がPCを使用する時は、1日5～6時間と極めて長時間PCと接しています。Web検索、文章作成・表計算、またeメール等々です。その時は、長時間キーボードを打ちながらの作業ですが、打つことによる疲れが出ていることは否めない事実です。そこでこのキーボードを打たずして、“よりスピーディに”“よりスマートに”PC作業が出来ないかと考えていたところに、下記のキャッチコピーが目に入ったわけです。

キーボード入力より3倍効率よく作業が出来る！

(ということは、従来の1/3で作業が出来るということ と判断)

PC作業でこの疲れを少なくするには、これしかないという理由で購入しました。購入したソフトは “ドラゴンスピーチ 1 1 Light” です。

http://japan.nuance.com/dragonspeech/case_study.html

現在、購入後の日数がまだ浅いためもあり、現在のところソフトの機能が十分発揮されていないのが現状です。したがって音声認識によるPCの自動操作と、従来どおりのマウスを併用した作業が続いています。私にとって何がハードルを高くしているのかと考えた場合、数多くの決められたPC動作を指示するコマンド(命令)を十分覚えきれていない事、またこのような事をしたい場合どう命令をするのかのコマンドが十分まだ解っていないのが要因です。

販売元のプロモーションの内容、Web上のビデオのチュートリアルを見てみると、いとも簡単にスイスイと作業が進んでいます。『これは楽だ、これなら確かに効率が3倍UPする』のではと思ったのですが、私の場合その域に到達するには少し時間がかかりそうです。

それでは、実際どのようにコマンド(命令)指示をしながら文章作成するのかWordで見てください。

起動

デスクトップから『MSワードを起動』と命令しますと、MS Word の文章作成画面が表示されます。

文章入力

次に書きたい文章例えば『同窓会のお知らせ』と発音しますと、自動的に同窓

会のお知らせと文章を書いてくれます。

下の行に行きたい場合は、『次の行』と発音しますと下の行にマウスが移動します。(Enter キー操作と同じ)

また書きたい文章例えば『皆様お元気ですか』を発音しますと、自動的に皆様お元気ですかと文章を書いてくれます。

『!』マークが必要な時には、『感嘆符 または ビックリマーク または ビックリ記号』と発音

『。』句点が必要な場合は、『まる』と発音

文字の選択・センタリング・フォントサイズの変更

文字 を選択したい場合、『選択 』と発音しますと 文字を選択します。

選択した 文字を中央揃えにしたい場合、『クリック中央揃え』と発音しますと、中央へ移動します。

中央へ移動させた 文字の大きさを変えたい場合、『クリックフォントサイズ』と発音し必要な文字サイズを

発音します。例えば18の場合『ジユウハチ』と発音し『Enterキーを押す』と発音します。文字が大きくなります。

文字の修整・

誤字 を修正する場合、『選択 』と発音しますと 文字を選択します。

(と同じ)『それを修正』と

発音すると、 と同じ発音をする熟語サンプルを表示しますのでその中から番号で(例えば3が正しい場合) 『3番選択』 『クリックOK』と発音すれば修整してくれます。

文字の挿入

『山』の前に『でっかい』という文字を入れたい場合、『前に挿入 山』

『でっかい』と発音すると 山の前にでっかいが挿入されて “でっかい山” となります。

文字の削除

『選択 』と発音しますと、 文字を選択します。(と同じ)

『それを削除』と発音しますと、 文字が削除されます。

文字色を変える

文字の色を変える場合、『選択 から○ 』または『 』と発音しますと、から○ 文字をまた の文字を選択します。()と同じ

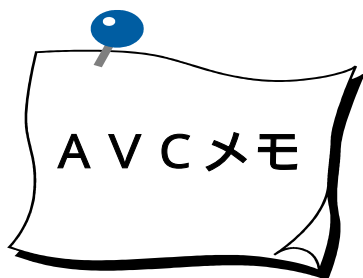
『それを赤にする』と発音すると文字色が赤に変わります。

保存

『名前をつけて保存』と発音すると保存画面に変わります。

Wordで文章を作成する場合の例を記述しましたが、『 』のコマンド（命令）を確実に覚えなければキーボードの入力作業より遅くなります。私の場合は圧倒的にキーボード入力の方が早い状態です。

しかし慣れるに従い、Word、Web検索、eメール作業等にキーボード入力の必要性が極端に減るとなれば、問題の疲れも少なくなると同時に、PCの周辺環境が大きく様変わりし、経験したことのないPCライフが楽しめそうですので、今日も今もPCの前で特訓しているところです。



F と f

竹田 幸男

今回のタイトルを見ただけで「レンズのことだな」と気がついた人は、相当なカメラ通、カメラマニアです。

今の世の中、Fとfを、ほとんど意識せずにカメラを買ったり、写したりする人が大半でしょう。

Fはレンズの明るさ、fはレンズの焦点距離です。レンズの直径（有効径）をとすると、

$$F = f /$$

の関係があります。レンズの直径が同じだとすると、焦点距離fが大きくなるほどFが大きくなり、即ち明るさが暗くなります。焦点距離の大きいレンズ、すなわち望遠レンズほど、明るく写すためには大きいレンズである必要があります。

上の式から、焦点距離fと直径が同じであれば、F = 1になります。F = 1を基準にして、明るさがその半分になるのはF = 1.4、さらにその半分になるのはF = 2です。このようにして明るさは、

$$1 \quad 1.4 \quad 2 \quad 2.8 \quad 4 \quad 5.6 \quad 8 \quad 11 \quad 16$$

のように右に1段ずれるごとに明るさが半分になります。古いフィルムカメラ、今でも交換レンズなどに彫り込まれている絞り値の数字がこのような値になっているのに気がついた方もあるでしょう。かつては自動露光装置などは無く、シャッター値も絞り値も、カメラの表示を見て手動で設定していたので、この数値が非常に大切な意味を持っていました。カメラ雑誌などの掲載写真の傍らには「F 8、1 / 100秒」などと、データが表示されるのがおきまりでした。

さらにFの値に3.5とか4.5とか6.3という数字があることをご存じの方もあると思います。F 3.5はF 2.8とF 4の間、F 4.5はF 4とF 5.

6 の中間、F 6 . 3 は F 5 . 6 と F 8 の中間にあつて、その差は それぞれ半絞りと呼ばれています。その昔は絞りを一杯開けても F 6 . 3 などという暗いレンズがあり、それが F 4 . 5 に、F 3 . 5 に、F 2 . 8 に、F 2 にと、次第に明るくなってきましたが、値段も高くなっていきました。フィルムの感度が上がり、フィルムに代わる半導体光学素子(撮像素子 - CCDやCMOSなど)の進歩に伴って、レンズの方はコストを考えて少しは暗くても差し支えないと言うことで、F 3 . 5 とか F 4 . 5 というレンズが多くなってきました。ズームレンズなどは、広角側では F 2 だか、望遠側にして行くに従って暗くなり、最望遠では F 4 や 5 . 6 になる、などという例もあります。

レンズの直径の「有効径」という意味について解説します。今の写真レンズは虫眼鏡のように 1 枚ではなく複数(写真用は 3 枚 ~ 10 数枚)のレンズを組み合わせてできています。そのレンズは皆直径が同じではなく、様々な直径のレンズが使われています。光の通り道を考えて、レンズ全体でどれぐらいの直径のレンズに相当するかを測定して有効径を決めています。

以上はレンズそのものの F 値(開放 F 値)についてお話ししましたが、F の値が固定では明るさの調整ができなくて不便なので、レンズの中に光を制限する部品を入れて通る光の量を制限します。これを絞りといい、レンズの外から調整します。今のカメラの多くは電氣的に絞りを調整できるようになっています。

ここまでは数値的なことだけをお話してきましたが、F と f には何の意味があるのか、という大切なことに触れましょう。

これは、画像、映像の美しさに関係がある、と言う答えになります。ポートレートや花の写真を取れば、F 値が小さい、明るいレンズで人の顔を撮ると、目にピントが合っているも鼻がすでにぼけている、花であれば手前の花弁がはっきり写っていて後ろの花弁がすでにぼけている、という映像・画像が得られ、非常に情緒的な表現ができます。このような場合、写った映像、画像は「焦点深度が浅い」という表現になります。

明るい所、たとえば太陽光の元では、絞りが絞られる、または絞らなければならぬ状態になります。こういう状態では焦点深度の浅い映像は得られません。そういうときはどうするか、というと速いシャッター速度にするか、ND フィルターという色の濃いフィルターを使います。ND フィルターは通過する光の量を減らしますが、通過する光線の色の比率を変えない(色を変えない・色を付けない)フィルターです。

また集合写真を撮る時には、前の列から後ろの列の人まで、一様にはっきりした顔が写ってほしいものであり、そのためには絞りを絞って、明るさを確保するため遅いシャッター速度で撮ります。このように写した映像、画像は「焦点深度

が深い」という表現になります。

一方 f の値は、映像・画像の大きさ、写る範囲に関係します。フィルムまたは撮像素子の大きさが決まると、写る画面の範囲（画角）は f が大きくなるほど狭くなります。言い換えれば画面の中で相対的に大きく写ります。 f の大きいレンズは望遠レンズ（または長焦点レンズ）と言われ、 f の小さいレンズは広角レンズ（または短焦点レンズ）と呼ばれます。

フィルムカメラの時代、撮影画面が 24×36 ミリの「ライカ版」のカメラでは $f = 50$ mm のレンズが標準レンズと言われ、 50 ミリ以下が短焦点レンズ、 50 ミリ以上が長焦点レンズでした。 F （レンズの明るさ）が同じ場合でも f （焦点距離）の大きいレンズほど焦点深度が浅くなります。ですからズームレンズであれば、広角の状態より焦点距離が長い望遠の状態にした方が「焦点深度が浅い」状態になるので、情緒的な映像を撮りたいときは望遠状態で撮影すればいい、ということになります。

このように、その時々、写す対象と目的によって F と f を有効に使い分けていい映像、いい画像を得て頂きたいと思います。